

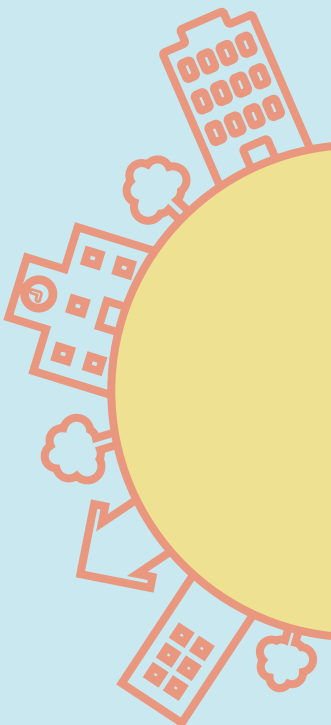
Hondaの
安全運転普及活動
報告書

2018



Safety for Everyone

すべての人の安全をめざして



本田技研工業株式会社 安全運転普及本部

〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/>



Contents

- P 03 **ごあいさつ**
本田技研工業株式会社 専務取締役
安全運転普及本部 本部長 竹内弘平
- P 04 **Honda の安全に対する考え方**
Safety for Everyone すべての人の安全をめざして
- P 05 **2018 年の振り返り**
「交通事故ゼロ社会の実現」に向け、普及活動を拡充
- P 06 **特集①: 四輪販売会社の活動**
お客様への手渡しの安全活動の進化
- P 08 **特集②: 教育プログラムの更なる充実**
幼児の保護者向けプログラムの開発
- P 10 **交通教育センターの活動**
参加体験型の実践教育による企業・団体や個人への安全運転教育
- P 11 **教育機器開発**
社会や時代のニーズに合わせてシミュレーターソフトを進化
- P 12 **関係諸団体との連携**
交通事故の低減に向けた関係諸団体との連携
- P 14 **地域社会との連携**
交通安全の輪を地域に拡げる指導者の活動をサポート
- P 15 **海外における活動**
現地の交通状況に応じて展開される安全運転普及活動を支援
- P 16 **福祉領域における活動**
運転復帰に向けた機会の提供、環境の構築などをサポート
- P 18 **情報発信**
すべての交通参加者に交通安全を考えるきっかけにいただく情報発信

ごあいさつ

本田技研工業株式会社 専務取締役
安全運転普及本部 本部長

竹内弘平



日頃からHondaの安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。今年も様々な活動を国内外で普及・展開することができました。これも皆様のお陰によるものと、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

さて、自動車産業を取り巻く状況は、電動化や自動運転へ向けた進化に加え、共有化、コネクティッド化など、単にクルマをつくって販売するという領域を越え、様々な業種とのオープンイノベーションのもと、世界各地域において非常に速いスピードで環境変化が進んでいます。

このような中、私どもはより先を見据えたビジョンを描き、時代の変革にいち早く対応するために、昨年2030年ビジョンを策定し取り組みをスタートしました。

これは、モビリティをつくるメーカーとして「すべての人に、“生活の可能性が広がる喜び”を提供する」というビジョンステートメント達成に向けた取り組みであり、クリーンで安全・安心な社会の実現をめざし、車両の安全性を向上させると同時に交通安全教育により安全運転の普及を促進し、「交通事故ゼロ社会の実現」をリードしていくというものです。

私どもは、1970年に安全運転普及本部を立上げ、「事故に遭わない社会」の実現をめざし、今年で49年目となります。設立当初は二輪、四輪のライダー、ドライバーを対象とした活動でしたが、現在では「Safety for Everyone」のグローバル安全スローガンを掲げ、幼児から高齢者まで、さらに歩行者や自転車利用者を含むすべての交通参加者を対象に活動を継続しております。

今年「平成32年を目途に交通事故死者数を2,500人以下とし、世界一安全な道路交通を実現する」とした、政府の第10次交通安全基本計画の折り返しとなる年となります。平成28年に4,000人を切った交通事故死者数は、本年も10月末現在で継続し減少の傾向ですが、この目標を達成するためには、まさにすべての交通参加者への取り組みが必要であり、私どものスローガンと志を共にするところであります。

特に近年、自動運転を見据えた先進の安全運転支援機能の普及拡大や、高齢運転者特有の事故など、クルマの安全性向上のみならず、その機能の正しい理解普及や、高齢者に向けた交通安全教育の機会と場の提供が重要であると考えます。また次

世代のより良き交通社会人育成のためには、幼児の段階からの体系的な教育も大切です。

このような観点より、本年の取り組みをいくつかご紹介いたしますと、まず、昨年トライアルとしてご紹介しました「Honda SENSING」の正しい理解をお客様に広める活動として、全国の営業スタッフへの研修会を4月より本格的にスタートしました。既に計画を大幅に上回る参加者が受講し、全国各地で体感試乗会を開催しております。

また、高齢運転者に対しては、四輪販売店の店頭で気軽に参加できる安全運転診断のプログラムを開発しました。これは、乗車前の安全確認や乗車中の認知・判断・操作について、ゲームを交えて楽しみながら日頃の運転について改めて考えていただき、自らの気づきにより安全運転を心がけていただくもので、10月に試行を完了し、間もなく完成予定です。

一方、次世代への取り組みとして、一昨年の幼児向けプログラム、昨年の小学校低学年向けプログラムに続き、今年は幼児の保護者向けプログラムを開発しました。これは幼児への教育に加え、一番身近にいる保護者の方々に、ご自身のお子様を守るため、交通安全への理解を深めていただき、自らの行動につなげていただく内容となっております。

さらに海外に目を向けますと、日本を含む40の国と地域で安全運転普及活動が実践されており、毎年10月に開催されるインストラクター競技大会には、今年も10の国と地域から43名の海外インストラクターを迎え、さらに大会を前に個々のレベルアップをめざした研修会にも多くの方々が参加されています。また5月にはタイにおいて、アジア大洋州地域の安全運転部門マネージャー会議が初めて開かれるなど、その活動は年々加速しつつあります。

これらの国内外の様々な取り組みにより、Hondaはすべての交通参加者が「事故に遭わない社会」の実現をめざし、これまで以上に行政、関係諸団体、地域社会など多くの皆様と連携を深めながら交通安全活動に取り組んで参ります。

最後に皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りするとともに、Hondaへの変わらぬご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

Safety for Everyone

すべての人の安全をめざして

クルマやバイクに乗る方だけでなく、社会の誰もが安心して、安全に暮らせる「事故に遭わない社会」をつくりたい、それがHondaの願いです。わたしたちは「ヒト(安全教育)」「テクノロジー(安全技術)」「コミュニケーション(安全情報)」の3つの領域を、それぞれ進化させると同時に相互の連携を図ることで、交通事故ゼロ社会の実現をリードしていきます。



安全運転普及本部の活動の考え方

安全運転普及本部は1970年の発足以来、販売店の店頭で直接お客様へ安全をお伝えする「人から人への手渡し安全」と、専用コースで専門インストラクターの指導により危険を安全に体験する「参加体験型の実践教育」を活動の基本としてきました。現在では、運転者だけでなく、幼児から高齢者まで全ての交通参加者に向けて活動を行っています。今後も交通安全の普及活動を主体的に推進し、関係者・団体による各種活動への積極的な支援を継続していきます。



「交通事故ゼロ社会の実現」に向け、普及活動を拡充

2030年ビジョンに掲げた「交通事故ゼロ社会の実現」に向け、2018年も「人から人への手渡し安全」と「参加体験型の実践教育」を基本として、交通社会の変化やニーズに合わせ、活動を展開しました。



四輪販売会社での「みんなで安全運転行動診断」

高齢運転者の方へ日頃の運転行動や意識を振り返っていただくために

高齢運転者の事故の人的要因の1つとして、ブレーキとアクセルの踏み間違いなどの「運転操作不適」が最も多くなっています。このような高齢者の特性を踏まえ、来年からの普及をめざし、四輪販売会社のお客様を対象としたプログラム「みんなで安全運転行動診断」の開発に取り組みました。店頭でできる簡単な体験を通じて、自らの日頃の意識や行動を振り返りながら、事故を防ぐために必要な安全行動の重要性に気づいていただくことを目的としています。

先進的安全運転支援システムの正しい理解の普及のために

衝突軽減ブレーキや誤発進抑制機能といった安全運転支援システム「Honda SENSING」を普及させるためには、搭載率向上に加え、お客様に手渡しで、その効果や限界について正しく理解していただくことが必要です。そのために、今年から、お客様と接する四輪販売会社のスタッフがシステムへの理解を深め、お客様向けの体感試乗を安全に運営するために必要なことを学ぶ研修を本格的に開始しました。研修を受講したスタッフにより、「Honda SENSING」の体感試乗が全国各地の四輪販売会社で実施されています。



幼児の保護者向けプログラム

保護者が自分の行動を振り返り何をすべきかに気づいていただく

幼児期は交通安全の基本を吸収する大切な時期であり、家庭の中で日常的に安全を考える機会をつくる必要があります。そこで、幼児の保護者の方々に対して、わが子の安全を守るために何をすべきかを考えていただくことを目的としたプログラムを開発しました。安全な歩き方、自転車利用時のヘルメット着用や自動車乗車時のチャイルドシート使用の重要性について、正しい使い方の理解とともに、危険な交通場面の映像や資料から日頃の行動を振り返っていただき、どうすれば事故を防げるかを保護者に問いかけ、気づきを促す内容となっています。

このほか、「SAFETY MAP」に表示されている急ブレーキ多発地点などの情報を、道路改善などに役立てていただくため、滋賀県警察本部と「交通事故防止対策の推進に関する協定」を締結しました。昨年、協定を締結した千葉県警察本部と警視庁では急ブレーキ多発地点の情報をもとに対策が検討され、道路改善が実施されています。また、お身体の不自由な方の運転復帰に向けた取り組みでは、各地域で自立して活動していただくため、昨年の沖縄県に続き、今年は熊本県と鹿児島県において指定自動車教習所協会と作業療法士会との連携活動をサポートしました。海外においては、Hondaの中国現地法人が中国国内の事故削減をめざし、自社内の二輪チーフインストラクターの養成を開始するなど、今年も様々な海外事業所の活動を支援しました。

お客様への手渡しの安全活動の進化

全国各地のHonda Cars (四輪販売会社) では店頭での安全アドバイスなど、お客様との触れ合いを大切にされた手渡しの安全活動を実践しています。Hondaは、こうした活動を充実させるため、安全運転教育プログラムの開発や指導者の養成を積極的に行っています。

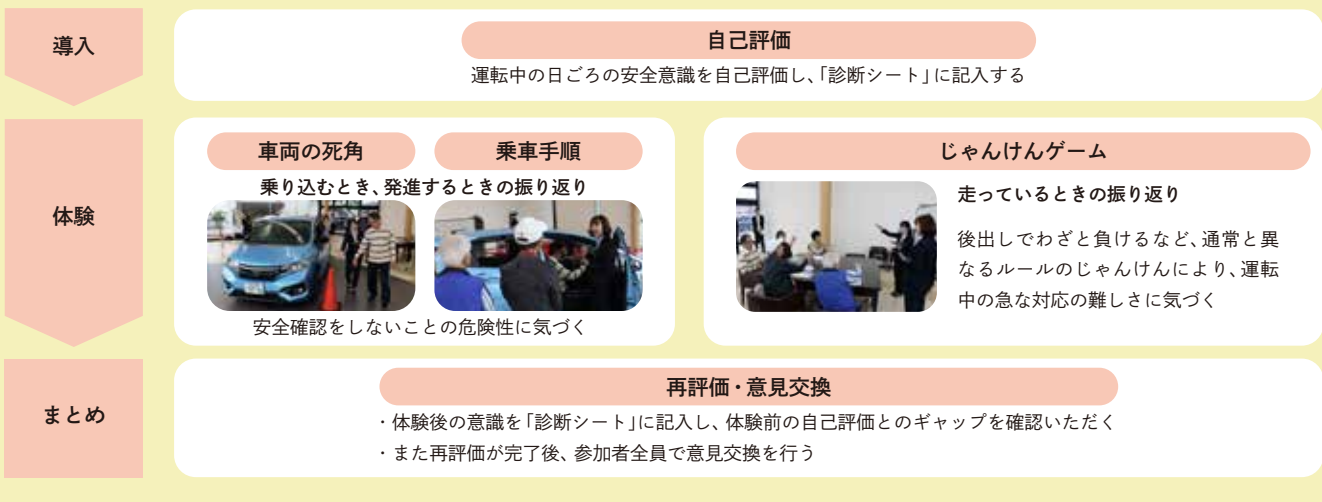
高齢運転者の方へ日頃の意識や運転行動を振り返っていただくために

近年、交通事故死者数は減少傾向にあるものの、65歳以上の高齢者の人口増加に伴い、高齢運転者特有の事故が目立っています。その事故要因としては「運転操作不適」によるものが最も多くなっています。

そこでHondaは、そういった高齢者の特性を踏まえ、安全意識の向上や行動につなげていただくために新たなプログラムとして「みんなで安全運轉行動診断」の開発をスタートしました。このプログラムは店頭でできる簡単な体験を通じて、自らの日頃の意識や行動を振り返りながら、運転操作間違いによる事故

を防ぐためのポイント「安全確認」「余裕を持った行動」「早めの危険予測」の重要性に気づいていただくことを目的としています。また、「運転操作不適」による事故の割合は、高齢者だけでなく若年層でも高いため、ご家族などすべての年齢層の方々に参加いただけるプログラムとしました。10月にはHonda Cars光東(本社: 山口県下松市)のお客様を対象に5つの拠点でプログラムを試行。2019年の普及をめざし、開発を進めています。

プログラム概要



受講したお客様の声



光店で受講した藤本茂成さん
 クリープ現象のことは、今回初めて知りました。これを利用して、ゆっくり発進することを心がけたいと思います。子どもの飛び出しで危険を感じることもあるので、事故を起こさないように気をつけなければいけないと感じました。



山口東店で受講した長町遥香さん
 私は20代ですが、反応を体験するじゃんけんの間違ったりして、とっさに対応できないとわかりました。クルマを運転する時は時間に余裕を持って運転しようと思います。

販売会社の声

Honda Cars 光東 営業本部 エリアマネージャー 西本悦生さん
 お客様の交通事故防止に対する意識が高まっているので、私たちから安全に関する情報を提供したいと考えていました。お客様にも好評だったので、実施して良かったと感じています。

下松店 山近楓さん
 お客様に自分の体験や思っていることを話していただけたので、スムーズに進行できました。事故予防に必要な意識や行動に気づいていただけたと思います。

先進の安全運転支援システムの正しい理解の普及のために

Hondaは昨年9月に発売したN-BOX以降、軽自動車を含めた新型モデルで、衝突軽減ブレーキを含む「Honda SENSING」と総称する先進の安全運転支援システムを標準装備化しています。今後、さらにこのシステムを搭載したクルマが増えていくことが予想されるため、運転するお客様がその機能の効果や限界について正しく理解し、安全運転意識を高めていただくことが重要です。

そこで昨年、Hondaは四輪販売会社のスタッフが、より正しくお客様に安全運転支援システムの説明ができると同時に、各拠点などで体感試乗を安全に運営するための研修プログラムを作成。Hondaの交通教育センターを中心に、アドバンスドセーフティコーディネーター※研修(以下、ASC研修)として本年4月よりスタートしています。

ASC研修では、まず座学でHondaの安全の考え方や安全運転支援システムの仕組みや作動原理について理解を深めます。その後、実技ではインストラクターが運転するクルマに同乗し、衝突軽減ブレーキを体験、次に受講者自身が運転します。この時、前方の障害物への接近を知らせる警告音が鳴ったタイミングでブレーキをかければ、衝突軽減ブレーキが作動する前に余裕を持って停止できることを体験し、システムに頼らず、運転者自身が回避行動をとることの重要性を学びます。このような体験をもとに、受講者は

交互に指導者役とお客様役になり、安全アドバイスをするためのロールプレイも行います。ASC研修は10月末現在41都道府県210社598名が受講しています。

※セーフティコーディネーター(SC):安全運転のアドバイスを行うための社内資格。ASC研修はSC資格取得者を対象に、レベルアップ研修として実施

全国各地で実施されている お客様を対象にした体感試乗

四輪販売会社による「Honda SENSING」の体感試乗は今年27都道府県47回(10月末現在)実施されました。

Honda Cars 千葉(本社: 千葉県千葉市)では年1回、お客様を対象に開催しているドライバースクールの中に体感試乗を取り入れました。6月に流山自動車学校で開催し、お客様23名が参加。交通教育センターでASC研修を受講した同社のスタッフが体感試乗会を実施しました。

最初に、図やイラストをお客様に見せながら、衝突軽減ブレーキなどの作動原理や機能の限界を説明。この後、お客様はスタッフが運転するクルマに同乗して衝突軽減ブレーキなどを体感しました。



アドバンスドセーフティコーディネーター研修で衝突軽減ブレーキを体験



Honda Cars 千葉のドライバースクールでの体感試乗

受講したお客様の声

Honda Cars 千葉の体感試乗会に参加されたお客様
 衝突軽減ブレーキを体感してみて、前方のクルマと衝突しそうなことを音で教えてくれる点がありがたいと感じました。警告音に気づいて自分がブレーキをかければ、システムに頼らず安全に止まることがわかりました。

販売会社の声

Honda Cars 千葉 販売部販売課 課長 滝口憲太郎さん
 体感試乗会では、研修で学んだように、システムを過信せず、安全運転することの重要性をお客様にご理解いただけるようにしました。

幼児の保護者向けプログラムの開発

幼児期は交通安全の基本を吸収する大切な時期です。しかし、最も身近にいる保護者の安全意識が低ければ、教育の効果も薄れてしまいます。保護者の意識を高めたいという声は地域の交通安全指導者からもあり、今年は幼児の保護者を対象としたプログラムを開発しました。

保護者が自分の行動を振り返り 何をすべきかに気づいていただく

地域の交通安全指導者から聞かれるのは「一般的に交通安全教育は幼児期から始まるが、幼児に守るべき交通ルールを教えるも、その後の保護者の言動によって台無しになってしまうことがある。したがって、保護者にも交通安全の重要性を再認識してもらうためのプログラムがほしい」という声でした。こうした現場のニーズに応えるため、新プログラム「わが子の命を守るために」を開発。今年8月に完成したこのプログラムは、小学校入学前の幼児の保護者に対して、危険な交通場面の映像と資料から自分の行動を振り返り、わが子の命を守るために何をすべきかに気づいていただくことを目的としています。

5つのテーマからなる本編映像(①歩き方、②自転車 保護者、③自転車 こども、④自動車、⑤ルール、マナー)および資料集で構成され、それらを交通安全指導者が幼稚園・保育園などの要望や実施時間に応じて選択し、組み合わせをアレンジして、安全教室を開催できるようになっています。

本編映像は2人の保護者(お母さん)の交通安全に対する意識

や行動を比較することで、子どもを事故から守るためにはどのように行動すべきかを考えていただく内容となっています。例えば、「歩き方」では、お母さんが子どもと常に手をつなぎ、信号が青でも曲がってくるクルマがあるので渡る前に右、左、右をみることを教えます。しかし、もう一方のお母さんは信号が青点滅になった時、一人で先に渡ってしまい、横断をやめようとする子どもを「早く行くよ」と呼びつけてしまうのです。そして、お母さんに向かって走る子どもが右折してきたクルマと接触してしまうところで映像は終わります。

その後、このようなケースで事故を防ぐためにはどうしたらいいか、交通安全指導者が保護者に問いかけ、考えてもらいます。このように、映像を見せるだけでなく、保護者との対話型構成になっている点もプログラムの特徴です。最後に、資料集を使って事故を起こさないようにするためのポイントを解説します。



本編映像では、子どもへの交通安全教育に熱心なお母さん(左)と、安全意識が低いお母さん(右)の行動を対比することで、保護者に思い当たる部分がないか振り返ってもらいます(本編映像「歩き方」より)



保護者が参加する交通安全教室での活用が進む

今年8月より、幼児の保護者向けプログラムは全国各地の交通安全指導者に活用されています。長野県松本市の交通安全指導員は、松本光明幼稚園の保護者を対象にこのプログラムを使った交通安全教室を開催しました。同園の保護者のほとんどはクルマで子どもを送迎していることから、「自動車」をテーマにした本編映像を選択。駐車場でお母さんが他の人との会話に気をとられて子どもから目を離し、子どもが遊んでいるうちに往来するクルマの前に

飛び出して事故に遭ってしまう映像などを見せ、こうした事故を防ぐために自分ならどうするか、保護者に考えてもらいました。そして、交通安全指導員が駐車場などで子どもだけを先に乗せたり降ろしたりしないこと、駐車場では必ず手をつなぐことを強調しました。

このように、保護者一人ひとりの安全意識を高め、家庭における交通安全教育の充実につなげていきます。



松本光明幼稚園での交通安全教室



交通安全指導者の声



松本市交通安全指導員 深澤靖恵さん
 私たちが保護者の方々に伝えたい内容が網羅されているので、我々の教室にも取り入れることにしました。わかりやすい映像により、大人が交通ルールを守ることの重要性を理解していただけだと思います。今後も、保護者の方々が参加する交通安全教室で活用していきます。

受講した保護者の声



松本光明幼稚園での交通安全教室に参加した 倉田由香里さん(上)と小口愛子さん(下)
 映像の中の悪い例を見て、自分にも思い当たる部分があったので、気をつけなければいけないと感じました。来年、子どもが小学生になるので、入学前に通学路と一緒に歩いて、危険な場所を確認しておこうと思います。(倉田さん)
 映像を見ることによって、自分はどうのように行動してきたか振り返ることができました。お母さんが子どもの様子を確認しながら、手をつないでクルマに乗せたり降ろしたりしているシーンが印象に残っているので、参考にしたいと思います。(小口さん)

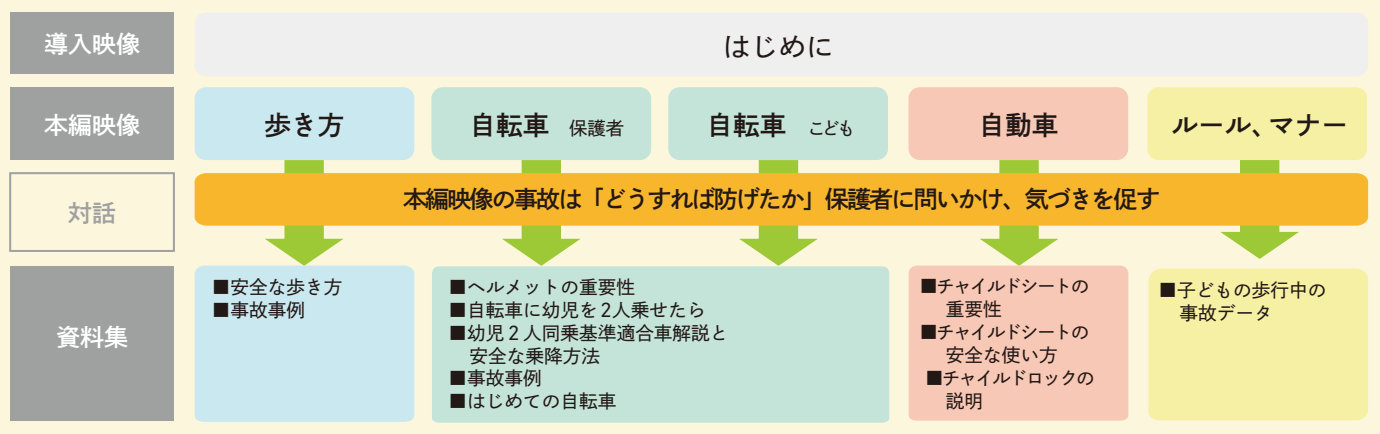


園長の声



松本光明幼稚園 園長 西片紀美子さん
 気にはしているけれど、実際にはできていないということを保護者の方々に気づかせてくれる映像だと感じました。映像を見終わった後に交通安全教育指導員の方が適切なアドバイスしてくれたことも良かったと思います。子どもの命を守るのは保護者だということを再認識していただけました。

プログラム概要



参加体験型の実践教育による 企業・団体や個人への安全運転教育

全国7カ所にあるHondaの交通教育センターでは、安全教育の指導者養成や、企業・団体、学校、個人のお客様を中心に参加体験型の実践教育により、スキルアップと共に安全運転への気づきと理解を促すための教育を行っています。今年では約8万人（10月末現在）の方にご利用いただきました。

企業・団体のニーズに 合わせた安全運転研修

企業・団体向けには、車両の使用状況や、事故傾向に応じたオリジナルプログラムを提供しています。

例えば、鈴鹿サーキット交通教育センターでは昨年4月から独自の運転評価システムHDSP (Honda Driving Style Proposal) を活用した運転習慣チェックプログラムを実施。今年度は4月～10月で864名が受講しました。このプログラムの特徴は個々の運転行動が可視化され、自己評価と比較することで、受講者自身が課題に気づき、行動の改善につながれることです。

また、受講者の運転走行データを蓄積・分析することで、受講者全体や同じ研修受講グループ内での個人の位置付けを把握でき、これに基づいた課題の設定や、運転行動の改善につながる講習が可能となりました。さらに、研修前後の走行データを収集するためUSB型簡易計測器を開発し、受講者の運転行動の改善効果を検証する取り組みも、本年10月より始めました。

Hondaは引き続き、走行データをもとにした新たな教育プログラムを開発していきます。



交通教育センターレインボー埼玉での安全運転研修



HDSPによる安全運転研修



USB型簡易計測器

Hondaのインストラクターの 指導力向上と均質化をめざす

Hondaのインストラクターの指導力ならびに安全運転技術の向上と均質化を図る場と機会の提供を目的に「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を1997年から開催しています。19回目となる今年も、国内の交通教育センターや事業所から40名、海外の10の国と地域から43名のインストラクターが参加。二輪部門と四輪部門に分かれ、それぞれ3種類の競技を行うとともに、安全運転の指導力向上をめざして共通議題についてのグループディスカッションを実施しました。各国の交通状況を理解しながら、様々な意見を交換することで、各々がインストラクター活動に役立つヒントを持ち帰りました。



普通二輪部門競技

社会や時代のニーズに合わせて シミュレーターソフトを進化

Hondaは長年培ってきた安全運転のノウハウを活かし、シミュレーターをはじめ、さまざまな安全運転教育の現場で活用していただくための教育機器やソフトを提供しています。それらは、社会のニーズに合わせて常に進化させています。

多くの自動車教習所に普及が進む Hondaライディングシミュレーター

2016年に運転シミュレーター型式認定基準が改正され、二輪免許の教習に次世代二輪シミュレーター*の運用が可能となりました。また、今年の道路交通法施行規則の改正では「普通自動車二輪免許の教習に運転シミュレーターを使用しないことができる」という経過措置が廃止されました（施行までの猶予期間3年）。

このような環境の中、2017年11月にライディングシミュレーターをモデルチェンジ。3代目となる新型は、より多くの教習所で活用していただけるよう軽量・コンパクト化を実現しました。コンパクトながらもAT車とMT車、さらに普通二輪車、大型二輪車のいずれの危険予測教習にも対応しています。走行中にどの地点で危険を感じ取ったかを記録して走行再生時に表示する「危険予測表示機能」など、危険予測の学習ができるソフトを充実させ、指導の表現力を高めました。危険予測学習ソフトの充実・低価格化、そして指導の表現力の向上などにより、51校（10月末現在）の自動車教習所に導入されています。今後もソフトをバージョンアップさせることで、社会のニーズに応えていきます。

*次世代：危険予測に特化し、車体傾斜機能を持たない



2017年11月にモデルチェンジした
Hondaライディングシミュレーター



「危険予測表示機能」で走行時の操作を記録（画面はイメージ）
※平成28年4月15日 特許登録（特許第5919243号）

Hondaの安全運転教育機器



Hondaセーフティナビ
「安全」な運転知識と「環境」にやさしいエコドライブを楽しく学習できます。



Honda自転車シミュレーター
自転車を運転する際に起こりうる危険を仮想空間上で体験することで、危険予測能力や安全意識の向上を図ります。



**リハビリテーション向け
運転能力評価サポートソフト**
四輪での運転復帰に向けて、運転能力に対する評価・訓練をサポートするソフト。シミュレーターにより、運転操作における手足の複合的動作を確認できます。

交通事故の低減に向けた関係諸団体との連携

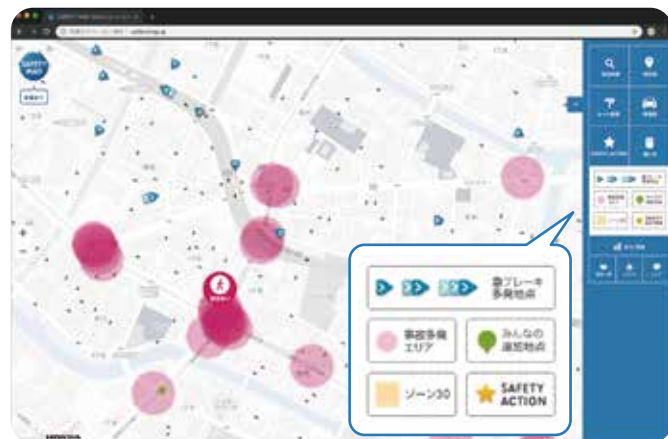
Hondaでは、安全運転普及活動をされている関係諸団体や業界の方々とも積極的に連携を深め、交通事故の低減に向けて取り組んでいます。

交通事故未然防止に向けた「SAFETY MAP」の活用

「SAFETY MAP」は運転者のみならず、歩行者・自転車利用者も含めたすべての交通参加者が、パソコンやスマートフォンで自由に活用でき、皆様の声でつくられていく安全マップです。また、個人の利用だけでなく、交通事故防止に活用する企業・団体も増えています。

今年は滋賀県警察本部と「交通事故防止対策の推進に関する協定」を締結。「SAFETY MAP」に表示されている急ブレーキ多発地点情報のデータを提供したり、交通安全教育に活用できる事故分析資料の提供を受けるなど、交通事故防止に向けて相互に協力していくこととなりました。このような協定を昨年までに4都府県の警察本部と締結したほか、広島県庁や大阪市立大学にもデータを提供しています。

急ブレーキ多発地点情報をもとに、警視庁では129ヵ所、千葉県警察本部は10ヵ所で対策を検討し、道路環境の改善を進めています。また、長野県警察本部では県内の警察署に情報を提供し、交通安全MAPの作成などに活用されています。



パソコン用「SAFETY MAP」(画面はイメージ)。日本中を走るHondaインターナビ(双方方向通信型のカーナビ)搭載車から集められたデータをもとに作成した急ブレーキ多発地点情報をはじめ、事故多発エリア情報やゾーン30情報などを表示。パソコンやスマートフォンで自由に閲覧でき、自分が危険だと感じた場所に投稿することも可能。詳細は以下のWebページを参照ください。
<https://safetymap.jp/>

警察、県庁、大学との連携	年	連携先
2016年		大阪府警察本部(協定締結)
		長野県警察本部(協定締結)
2017年		千葉県警察本部(協定締結)
		警視庁(協定締結)
		広島県庁(データ提供)
		広島県警察本部(データ提供)
2018年		大阪市立大学(データ提供)
		滋賀県警察本部(協定締結)

「SAFETY MAP」の急ブレーキ多発地点をもとに現場を確認し対策した実施例



改善前：急ブレーキ多発地点に信号機なし



改善後：信号機を設置



改善前：停止線のかすれ



改善後：停止線を明確にするため倍幅化

教習指導員のレベルアップと交流の場を提供

全国の自動車教習所教習指導員の方々の自己研鑽への動機づけや情報交換と交流の場としていただくことを目的に、2001年に始まった「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」(後援：(一社)全日本指定自動車教習所協会連合会)は今年で18回目を迎えました。会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国84校133名の教習指導員の方々が2日

間にわたり競技に取り組みました。さらに実車競技に加え、安全な実技講習会運営について学び合う実技指導力についてのグループディスカッションも実施しました。この大会には、全国22校24名の教習指導員の方々に審判員としてご協力いただき、ノウハウの提供も行っています。



普通二輪部門競技



四輪部門競技



実技指導力のグループディスカッション

二輪車関連団体などの活動にも積極的に協力

1969年より警察庁が開催している「全国白バイ安全運転競技大会」では審判業務や車両整備などに協力しています。また、(一社)日本二輪車普及安全協会が開催する安全運転活動への各種協力や、(一社)日本自動車工業会(以下、自工会)が推進する高校生原付通学者や高齢ライダーへの安全運転指導などにも協力しています。

自工会二輪車特別委員会 二輪車企画部会 二輪車安全教育分科会では、埼玉県の新たな「高校生の自動二輪車等の交通安全に関する指導要項」の制定に参画。原付や二輪車に乗せない教育から安全運転教育を充実させ、乗せて教育する方針転換につなげました。



第49回全国白バイ安全運転競技大会



埼玉県における「三ない運動」の見直しを議論する検討委員会

交通安全の輪を地域に広げる 指導者の活動をサポート

Hondaは地域の交通安全指導者や関連企業の従業員に対し、教育プログラムや指導方法を提供し、その活動をサポートしています。

新たなノウハウの創出をめざす 情報交換の場づくり

地域の交通安全指導者を対象とした交通安全教育プログラム勉強会を2015年から毎年開催しています。参加者が相互に指導内容の共有や意見交換することで、指導に役立てていただくこと、参加者の知識と経験を新たなプログラムの開発に活かすことが目的です。今年も19地区から交通安全指導者30名が参加しました。「小学校高学年・中学生を対象としたプログラム」をテーマに、参加者が日頃の活動内容や指導に活用している教材を紹介。さらに、グループに分かれて、何をどのように伝えるべきかを討議しました。勉強会で提案された意見やアイデアを反映し、新たなプログラムの開発を行っていきます。



交通安全教育プログラム勉強会

Honda 関連企業内に インストラクターを養成

Hondaは関連企業内の交通安全指導者「Hondaパートナーシップインストラクター（以下、HPI）」の養成をサポートしています。HPIは自社内および事業所の周辺地域における交通安全教育の普及に取り組んでおり、その活動の1つが親子交通安全教室の開催です。この教室は、子どもには事故の危険や怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と、子どもの行動特性を理解していただくことを目的としています。各地域とも交通行政、自治体、関係諸団体と連携しながら、継続して展開され、開催地区も拡大しています。



巻き込みの危険性を実験を通して考える



飛び出しの危険性を人形を使って再現

2018年 親子交通安全教室開催実績

- 4月 (株)ケーヒン(栃木県)
 - 6月 九州武蔵精密(株)(熊本県)
 - (株)ケーヒン(宮城県)
 - 武蔵精密工業(株)(愛知県)
 - 7月 (株)ケーヒン(埼玉県)
 - 日信工業(株)(新潟県)※
 - 9月 トピーファスナー工業(株)(長野県)
 - 10月 (株)ショーワ(静岡県)
 - ヴィオニア日信ブレーキシステムジャパン(株)(長野県)※
- ※…初開催

現地の交通状況に応じて展開される 安全運転普及活動を支援

海外における安全運転普及活動は、国内と同様に「人から人への手渡しの安全」「参加体験型の実践教育」を基本とし、海外事業所が主体となって展開しています。活動は、販売店でのお客様への安全アドバイス、交通教育センターでの運転者教育、学生や子どもを対象とした安全教育を中心に、政府や関係諸団体とも連携をとった活動を実施しています。Hondaは各国の交通状況に即した様々な活動が活発に展開されるよう支援しています。

アジア大洋州における 二輪の安全運転普及活動の強化を支援

アジア大洋州地域における交通事故削減をめざして、2018年5月にAsian Honda Motor Co., Ltd.が主催する二輪事業所の安全運転部門のマネージャーを集めたミーティングがタイで開催されました。出席者はアジア大洋州地域の12カ国14事業所37名にのぼり、各国の安全運転普及活動の状況、事故を減らす取り組みなどが紹介されました。参加者にとっては具体的なノウハウの共有や意見交換を行う機会となりました。



アジアの二輪事業所の安全運転部門から参加したマネージャー

タイの危険予測トレーニング動画の 制作を支援

タイの二輪販売会社A.P. Honda Co., LTD.は交通教育センター、販売店、関係諸団体と連携し、二輪車の安全運転普及活動を推進しています。今年度は新たな取り組みとして、より多くの方に危険予測を学んでいただくために、自社Webサイトで危険予測トレーニング動画「Accident Prediction Training」(以下、APT)を公開。Hondaはこれまでに得た危険予測トレーニングのノウハウをもとにAPT制作のアドバイスを行いました。今年度末までに全40シーンを公開し、今後は、交通教育センター、販売店をはじめ、様々な機会を活用し、危険予測の重要性を普及していく予定です。



タイの交通環境を再現



危険予測の設問シーン

中国におけるインストラクターの 養成を支援

Hondaの中国現地法人である本田技研工業(中国)投資有限公司(HMCI)は、中国国内の事故削減をめざし、2018年から自社内の二輪チーフインストラクター養成を開始しました。本年はHMCIより3名がツインリンクもてぎ内のアクティブセーフティトレーニングパークを訪れ、11日間の研修を受講。今年度中にこの3名のチーフインストラクターが、販売店スタッフ向けに安全運転指導者養成研修を開催する予定です。将来はこれらの指導者による安全運転イベントを各地で展開し、一人でも多くのお客様に参加いただき、安全運転活動の定着化をめざしています。



HMCI二輪チーフインストラクターの研修

運転復帰に向けた機会の提供、 環境の構築などをサポート

Hondaでは「より多くの人にクルマを操る楽しさを提供したい」「交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい」という想いのもと、運転復帰を望むお身体の不自由な方々への訓練の機会や場を提供すると共に、病院や教習所などで運転復帰の評価をする方にそのノウハウの提供や地域連携を実現するための環境整備のサポートをしています。



熊本での合同講習会

各地域の自動車教習所と 作業療法士との連携を支援

Hondaは運転復帰を望む方の自動車運転能力評価の手法として、シミュレーターや実車での訓練などを行う「自操安全運転プログラム」を提供しています。また、各地域で安心して評価が受けられる環境の確立と充実を図るため、交通行政や指定自動車教習所協会、作業療法士会の相互理解と連携を支援。昨年の沖縄県に続き、今年は熊本県および鹿児島県の指定自動車教習所協会と作業療法士会が合同講習会を行いました。

合同講習会では、Hondaの交通教育センターで「自操安全運転プログラム」を担当しているインストラクターが講師となり、参加した教習指導員と作業療法士にそのノウハウを伝えました。作業療法士は患者役となって、運転補助装置が取り付けられた車両を運転し、プログラムを体験。さらにグループに分かれ、病院施設での運転復帰に向けた評価・訓練の実態や、自動車教習所の受け入れ体制などについて情報や意見を交換するなど、双方が交流する場も設けられました。参加者からは「教習所の考え方や受け入れ体制を学ぶことができた」「講習会の開催回数を増やしてほしい」といった声が聞かれました。



運転補助装置が取り付けられた車両で、自操安全運転プログラムを体験



合同講習会では教習指導員と作業療法士が情報や意見を交換

運転補助装置メーカー3社と Hondaによる合同安全啓発

お身体の不自由な方の運転に関する情報は入手しにくい状況といえます。そこで今年、Hondaは運転補助装置メーカー3社((有)フジオート、(株)ミクニライフ&オート、(株)オフィス清水)と合同で、クルマに運転補助装置の取り付けを検討しているお客様に対する安全啓発活動を4月から9月にかけて実施しました。「ご自身に合ったクルマや運転補助装置の選択方法」、「運転免許試験場での適性相談」、「任意保険の告知義務」、「クルマに乗ってご自身を知る機会」といった情報をまと



写真左から(有)フジオート代表取締役 杉山光一さん、(株)ミクニライフ&オート代表取締役社長 大西浩樹さん、(株)オフィス清水代表取締役 清水深さん

めた安全啓発チラシ「わたくしたちからみなさまへ『手渡しの安全』」を作成。これを3社の販売代理店などから配布し、お客様の安全意識の向上を図りました。

(株)ミクニライフ&オート代表取締役社長 大西浩樹さんは「身体障がい者の運転について、健常者にも理解を深めてもらう必要があります。今回の活動は、そのきっかけづくりになります」と取り組みの意義を語りました。



運転補助装置の取り付けを検討しているお客様に配布した安全啓発チラシ

送迎運転者への実技による 安全運転教育の普及

Hondaはお身体の不自由な方だけでなく、送迎運転者向けの「移送安全運転プログラム」を交通教育センターで実施し、今年は75名が受講しました。

さらに、より多くの方に参加いただくために、各地域にて講習



車両感覚や運転操作の確認

を実施するNPO法人の指導者向けの実技マニュアル作りも進めています。また、昨年から福祉車両を販売しているHonda Cars(四輪販売会社)とも連携。Honda Carsによる送迎運転者向けの安全運転講習会も継続的に開催しています。



福祉機器の操作方法の確認

すべての交通参加者に交通安全を考える きっかけにさせていただく情報発信

Hondaの交通安全Webサイト

交通センスを身につける「危険予測トレーニング(KYT)」

交通安全情報紙 SJ
(セーフティジャパン)

交通安全Webサイトと交通安全情報紙 SJ (セーフティジャパン)

Hondaの交通安全Webサイトでは、交通安全に関心をお持ちの皆様が有効にご活用いただけるよう、教材や教育機器を紹介する様々なコンテンツを用意しています。また、アニメーションで日常の交通環境に潜む危険について学べる「危険予測トレーニング(KYT)」なども公開していますので、ぜひご活用ください。

交通安全情報紙SJ(セーフティジャパン)は1971年8月の発行以来、タイムリーな情報提供やHondaの交通安全教育のノウハウ、普及活動を紹介してきました。今後も交通事故ゼロ社会の実現をめざす皆様に向けて引き続き情報を提供していきます。HondaのWebサイトでも、SJの全記事を毎号掲載しています。

<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/>

Honda 交通安全ポスター・動画コンテスト

2014年から実施しているHonda交通安全ポスター・動画コンテストは毎回数多くの応募をいただいています。第5回目となる今回のテーマは「事故のない未来を描こう～子どもたちの笑顔のために～」。Hondaはお客様にこのコンテストへの参加により、交通安全について普段から考え行動するきっかけをつくっていただきたい、という想いを込めて実施しています。

第5回の入賞作品は2019年3月中旬にHondaのWebサイトに掲載しますので、ぜひご覧ください。

https://www.honda.co.jp/safetyinfo/movie_contest/



第4回Honda交通安全ポスター・動画コンテストのポスター部門で大賞となった山名りかさんの作品

人から人へ、手渡しの啓発ツール

Hondaは全国交通安全運動に合わせて「セーフティキャンペーン」を実施しています。期間中に道路を使うすべての人が安全意識を持っていただくことを目的に、Honda従業員をはじめ、販売店や関係諸団体と連携し、お客様や地域の方々に広く展開しています。一例として、二輪・四輪販売会社の店頭では、人から人への手渡しの安全活動を基本に、安全運転情報誌や啓発ツールを使ってお伝えしており、それらをWebサイトにも掲載しています。



四輪販売会社を通じてお渡ししている安全運転情報誌「Think Safety」

早めのヘッドライト点灯啓発リーフレット

KYTぬりえ

交通安全ぬりえ

幼児から高齢者まで 様々な方を対象にした教育教材(一部)

できるニャンと交通安全を学ぶ (幼児向け)

一人で外を歩き始める前の子どもたちが体操やアニメーション映像でキャラクター「できるニャン」と一緒に道路上の危険を考え、安全な渡り方を楽しく学べるプログラムです。



できるニャンと交通安全を学ぶ 小学校低学年歩行編

行動範囲が広がる子どもたちに道路状況に応じた安全な歩き方を学べるアニメーション映像と、映像にリンクした道路横断の実技を体験できるプログラムです。



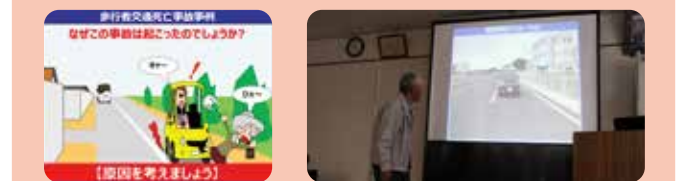
高校生交通安全教育指導マニュアル (高校生向け)

高校生の交通事故防止を目的に、映像と資料から交通安全意識の向上や他の交通参加者への思いやりを身につけていただく指導者用教材です。



安全な道路の渡り方について (高齢者向け)

イラストと運転者・歩行者の目線で表現された映像を使い「思い込みから起こる事故」を観察しながら考え、安全な横断方法を再認識していただくためのプログラムです。



これらの教育教材の活用を希望される自治体、警察、団体の方は下記宛にお問い合わせください。

本田技研工業(株)安全運転普及本部 TEL: 03-5412-1150